

令和7年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【和土小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	今年度は、国語では漢字や熟語等の分からない言葉に出会った際に、自分で国語辞典やタブレット等を活用して調べという学習活動が定着してきた。今後も、教科横断的な視点で継続して取り組んでいく。算数では、「小数の計算」や「題意を式に表す問題」、「公約数を求める問題」に課題がみられたため、引き続き反復学習や計算の意味を考える活動を重視していく。また、その時間を確保できるように見直しをもって単元計画・授業計画を立てるようにする。さらに、ICTの活用や具体物の操作、学習プリント等を通して、児童が主体的に学びを選択できるようにしていく。
思考・判断・表現	授業において児童同士が意見の伝え合いや、自分の考えを説明する際の学習形態を工夫することに課題があった。読解力向上や主体的な学習態度の醸成をより一層効果的に進めるために、ペアやグループでの学習形態の工夫を学校全体で実施できるようにしたい。また、単に発表やレポートを行う活動自体を目的とするのではなく、習得した知識・技能を活用しながら課題を解決する力を育みたい。そのため、読書タイムやNIE実践指定校としての新聞活用、さらに学校図書館を利用し、複数の本などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告するという言語活動を充実させて、「言語化・共有・対話」を通じて、児童の「主体的・対話的で深い学び」につなげていく。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言葉の使い方に関する事項」 算数「数と計算」「データの活用」 <指導上の課題> 反復・習熟に取り組む時間の確保 個に応じた指導の充実	⇒ <ul style="list-style-type: none"> 漢字を使った熟語を調べたり、自分で文を作ったりする活動を行う。また分からない言葉に出会った際に、日頃から国語辞典やタブレットでその言葉を探るよう指導助言を行う【毎時間】。 計算の反復学習に加え、計算の仕組みや計算が使われる場面を考える時間の確保【毎時間】。 ICTを活用したり具体物を用いたりして、一人ひとりの課題に応じた学習指導の改善【週に1度以上】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「話すこと・書くこと」「書くこと」 算数「図形」「データの活用」 <指導上の課題> 授業の中で自分の考えの根拠を説明する機会の確保 個に応じた指導の充実	⇒ <ul style="list-style-type: none"> 話を聞く際に、自分と相手との意見の相違点に着目させたり、相手の伝えたいことが何かを考えたたり、整理したりすることを意識できるように指導を行う【毎時間】。 問題文と図を指し示しながら説明したり、図や式などを用いて数量の関係を表して読み取ったりする活動を繰り返し行う【毎時間】。 机間指導をこまめに行い適切な指導を行う。また、家庭学習の工夫を回る【通年】。

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	A	・国語では、漢字を使った熟語を調べたり、自分で文を作ったりする活動を毎時間にすることができた。また、分からない言葉に出会った際に、国語辞典やタブレットでその言葉を探るような指導助言の実施状況は学校全体で70%であり、おおむね達成した。 ・算数では、計算の仕組みや計算が使われる場面を考える時間の確保等の実施状況は、学校全体で100%であり達成した。今後は、単元の内容や時間のまとまりを意識した単元計画・授業計画を立てることで、計算の反復学習の時間を確保できるように継続して取り組んでいく。 ・授業でICTを活用したり具体物を用いたりして、一人ひとりの課題に応じた授業改善の取組の実施状況が学校全体で100%であり達成した。今後も体系的な学習を通して、児童が主体的に学びを選択できるようにしていく。
思考・判断・表現	A	・国語では、話すこと・聞くことの指導において、自分と相手との意見の相違点に着目させたり、相手の伝えたいことが何かを考えたたり、整理したりすることを意識できるように指導の実施状況は学校全体100%であり達成した。しかし、児童同士の伝え合いや相手に説明する際の学習形態の工夫に課題がある。 ・問題文と図を指し示しながら説明したり、図や式などを用いて数量の関係を表して読み取ったりする活動を繰り返し行う取組についての実施状況は学校全体で100%であり達成した。 ・年間を通して机間指導をこまめに行い、個に応じた指導の実施状況は学校全体で100%であり達成した。家庭学習については、今後も懇談会等で保護者に協力を促し、より一層の充実を図っていく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、言葉の特徴や使い方に関する問題において改善がみられた。漢字を文の中で正しく使う問題の正答率が高い。算数では、数と計算の問題において課題がみられた。解答類型を見ると、数直線に示された数を分数で捉えることへの理解が不十分であると考えられる。0から1までが何等分されているのに着目して、単位数を捉えることができるようになる。また、R7全国学力・学習状況調査の児童質問では、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか」について肯定的な回答をした児童の割合が8割と非常に多かった。今後も児童主体の「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を進めることができるよう学校全体で実践していく。
思考・判断・表現	国語の「書くこと」では、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくることに課題がみられた。集めた情報を整理する過程で、共通点や相違点などでまとめたものを、内容のまとまりとして文章の構成にも生かす活動を行う。また、集めた情報を操作しながら、書く内容のまとまりを考える経験を重ねられるようにする。算数では、「データの活用」の問題において課題が見られた。解答類型を見ると、適切なグラフを選択し、その理由を言葉や数を用いて記述する力が不十分であると考えられる。「なぜその答えになるのか」という説明を書いたり、答えの理由を自分の言葉で説明させたりする活動を重視していく。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、「主語と述語の関係に関する問題」において改善がみられた。引き続き教科横断的な視点で、主語と述語を意識させながら文を読んだり書いたりする活動を重視していく。しかし、「漢字を文の中で正しく使う問題」においては課題がみられた。学年により正答率には差があるため、学力向上策を継続して取り組んでいく。算数では、昨年度課題がみられた「数と計算」で、類似問題の経年での比較より、一部の学年では正答率の上昇がみられたが、「小数の計算」や「題意を式に表す問題」、「公約数を求める問題」に課題がみられたため、引き続き反復学習や計算の意味を考える活動を大切にしていきたい。また、教科に関わらず、問題文が長文となり複雑な問いになったりすると誤答がみられるので、普段の授業から問いに対して何を聞かれているのかや、どのように解答したらよいかということを手で指導していく。
思考・判断・表現	国語の「読むこと」において課題がみられた。タブレット内の画面をスクロールしながら問題文と資料を読み取るという操作に不慣れなことも理由として考えられる。文章を読む際には、「書き手の伝えたいこと」の中心を捉えながら読むこと」や「目的を意識して文章を読むこと」、「文章と図表を結びつけて読み取ること」等を教科横断的に指導していく。また、算数の「データの活用」の問題において課題がみられた。理由として、二次表の読取りの理解不足や、正しく目もりを読み取ることに課題があると考えられる。グラフの読取りの際には、目もりが何を表しているのかや、一つひとつ数値を確かめながら読むように指導していく。しかし、「地図から必要な情報を収集し、判断する問題」、「資料から的確に情報を読み取る問題」や理科の「影の長さの変化をグラフに表し、分析する問題」については、平均正答率が高かった。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	
知識・技能	B	・漢字を使った熟語を調べたり、自分で文を作ったりする活動や、分からない言葉に出会った際に、日頃から国語辞典やタブレットでその言葉を探るような指導助言を行った。 ・計算の反復学習に加え、計算の仕組みや計算が使われる場面を考える時間の確保等を意識して授業を行っている。 ・ICTを活用したり具体物を用いたりして、一人ひとりの課題に応じた学習指導の改善に努めている。	変更なし
思考・判断・表現	B	・話を聞く際に、自分と相手との意見の相違点に着目させたり、相手の伝えたいことが何かを考えたたり、整理したりすることを意識できるように指導を行うことができる。 ・問題文と図を指し示しながら説明したり、図や式などを用いて数量の関係を表して読み取ったりする活動を繰り返し行っている。 ・机間指導をこまめに行い適切な指導を行っている。また、保護者に協力を促し家庭学習の充実を図っている。	・左記の策を実践するにあたり、伝え合いや説明する際に、ペアやグループでの学習形態の工夫を行う【単元内1回以上】。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)